

モンゴル・日本「春の留学フェア-2025」

実施報告書

作成日：2025 年 5 月 27 日（火）

作成者：D.ムンフトヤ

標記の第 2 回「春の留学フェア 2025」を以下のとおり実施しましたので、報告いたします。

記

1. 開催日時： 4 月 19 日（土） 11：30～16：00
2. 開催場所：モンゴル・日本人材開発センター（多目的室、ロビー、図書室）
3. 実施体制
 - ① 春の留学フェア実施体制
 - 1) 主催：モンゴル・日本人材開発センター
 - 2) 共催：モンゴル国立大学（NUM）
 - 3) 後援・協力：在モンゴル日本国大使館、国際協力機構（JICA）、モンゴル日本語教師会
 - ② センター内フェア実施体制
 - 1) 総括：図書交流課
 - 2) 総括補佐：JICA 専門家、総務課
 - 3) 会場設営：総務課
 - 4) 通訳サポート：ビジネス課、日本語課
4. 参加大学・機関様（五十音順） *合計 4 校。ハイブリッドでのご参加
金沢大学、京都先端科学大学、福井大学、立教大学
5. 現地参加対象者と当日の参加者数
 - ① 参加対象者：高校生、大学・大学院生、一般社会人、大学関係者など
 - ② 参加者数：アンケート配布ベースで 283 名（内アンケート回答者数：247 名）
（センター来館者数：（来場者延べ数）：512 名）
6. 全体プログラム
・ 4 月 19 日（土）
 - ① 日本留学概要説明（モンゴル・日本人材開発センター、在モンゴル日本国大使館）
 - ② 国費留学生試験制度について（在モンゴル日本国大使館）
 - ③ 各大学紹介プレゼンテーション（参加大学、在モンゴル日本国大使館）

- ④ 帰国留学生 E.タミルによるトークイベント「日本におけるアニメーション産業の発展」
(NGO 法人モンゴルアニメーション協会 CEO、Econte 社総合プロデューサー)
- ⑤ モンゴル・日本センターによる個別相談。

7. 広報実績

- 1月10日：JICA と JASSO のホームページにて開始
- 3月18日：日本センターFacebook、Instagram、ホームページで広報を開始。
Facebook 有料 BOOST POST サービスでフェア案内を発信
- センター各種メーリングリスト（受講生（日本語コース、PC コース）、無料相談窓口利用者、日本語教師会）を活用し、約1万名へ案内を発信
- 3月21日：Education Fair（British school of Ulaanbaatar 主催）にて学生約100名に案内配布

8. アンケート集計

留学フェア4月19日（土）回答者数247名（回収率約87.6%）

9. 参加大学からのコメント：

・事前の打ち合わせも手厚くしていただき、またプレゼンテーション資料の翻訳サービスもありがたかったです。当日現地で KUAS 代表の方も非常に丁寧にご説明頂きましたし、当日の現地との中継もスムーズに行えて満足でした。来場者数、着席数も満足でした。秋のフェアで参加をし、入学予定者がブースに来場頂けたのも春・秋参加のメリットだと思いました。

・事前の Web サイトでの広報やビデオのモンゴル語訳・PPT のモンゴル語訳など、大変ありがたかったです。プレゼン時のリアルタイム翻訳、ブース来場者への対応等につきましても、遠隔地からの説明にほとんど不都合を感じることはありませんでした。モンゴル・日本センタースタッフの皆様から感謝申し上げます。

・事前の打ち合わせも含めてモンゴルのスタッフの皆さんが的確に動いてくださったので、プログラム全体を通してスムーズに進めることができました。通訳をしてくださった方々もとても優秀で大変助かりました。

・通訳がしっかりサポートしてくれた。

10. 参加大学からの提案について：

・ブースの来場者の様子はわかったのですが、会場全体の様子や人の入り具合などがわかるカメラの共有もあると良かったです。また、プレゼン会場内での音の反響（自分の声がハウリングしていた）、ブース対応時の会話音声の混線が少し気になりました。

・通訳がしっかりサポートしてくれた。できれば訪問者と直接会話をしたいです。

- ・ブースでも Zoom を利用したい。ブースのオンライン上でチャットが使えるように設定していただきたいです。
- ・個別相談を行っている際に、隣で話している方の声が入ってしまい聞きづらくなることが何度かあったので、特に混んでいる時間帯は対策が必要だと思います。

11. 各大学担当通訳者からのコメント：

金沢大学のブース担当者：

当日は金沢大学のブースでは 80 名が訪れ、大学紹介及び英語でのプログラムについて情報を受けた。来場者の方々から多く寄せられた。また、ブース対応中には、来場者が金沢大学の担当者と直接、やり取りを行ったため、質疑応答も円滑に進み、イベントは非常に有意義で成功裏に終了したと感じております。

京都先端科学大学のブース担当者：

来場者のほとんどが高校生で、保護者と一緒に訪れるケースが多く見られました。特に高校 2 年生の来場者は、2 年後の入学を見据えて「今からどのような準備をしておけばよいか」といった意欲的な質問を多くしてくれました。

最も多く寄せられた質問は、「工学部があるかどうか」や「英語で学べるコースがあるか」といった内容でした。京都先端科学大学には、まさにそのニーズに応える工学部や英語で学べるコースが設けられており、多くの来場者が関心を持って詳しい情報を求めています。また、入学に関する具体的な質問も多く寄せられました。たとえば、出願期間、入学試験、奨学金制度、学費、学生寮に関する質問が挙げられます。さらに、大学 1 年生の学生からは「英語で学べるコースに申し込みたい」といった声があり、日本語能力試験（JLPT）N2 に合格している学生からは「日本語で学ぶコースに申し込みたい」という希望も聞かれました。

福井大学のブース担当者：

来場者の中には、福井大学に強い関心を持っている方が多く見られました。特に多かった質問は、「入試の条件」、「英語のみで学べるコースの有無」、「学費や奨学金について」、「福井県での生活環境」などに関する内容でした。高校生からは、「2 年後の入学を見据えて、今のうちにどのような準備をすべきか」といった意欲的な質問が多く寄せられました。来場者の大半は工学部に興味を持っており、福井大学は学部数においては豊富のため来場者の関心を引いていたのではないかと思います。貴学の基本情報に加え、入試の流れや学費、奨学金の具体的な条件に関する詳細な説明を求める声が多く聞かれました。また、「福井県の地域的な特徴」や「外国人にとって住みやすい環境かどうか」についても関心を持つ方が少なくありませんでした。

立教大学のブース担当者：

当日は、英語と日本語で履修を希望する来場者の比率は 30%、70%でした。英語が得意な参加者には PEACE プログラムを積極的に紹介し、メリットを強調しました。日本語学習者が多かったため、学部・大学院の日本語履修プログラムに関する案内が中心となりました。特に出願書類（例：エッセイの有無）や EJU 得点基準など、詳細な出願手続きに関する質問が多かった。

12.全体として

1) 良かった点：

- 例年同様、JICA 事務所を通じたご支援のおかげで、春の留学フェアの広報活動を効果的に実施することができた。今回は、JICA 公式ホームページおよび経済開発部の Facebook ページでの掲載をはじめ、JICA 大学連携課から 123 の連携大学への一斉メール送信、大学に出向中の JICA 職員への情報共有、各国内 JICA 事務所への広報協力依頼など、多方面からご協力をいただいた。さらに、JASSO 様への広報協力依頼、各国の日本センター専門家への一斉連絡、JICA 民間連携事業部（民連部）の皆様への Team を通じた情報発信など、多岐にわたる広報ルートを活用することで、より多くの関係者にフェアの情報を届けることができた。
- また、例年同様に JICA モンゴル事務所を通して、参加大学からの案内資料等を通関トラブルなしに無事に受領できた。
- ブース担当者（通訳者）の方々が非常に優秀で積極的にサポートしてくれたという高い評価を参加大学からいただいた。
- 各大学の情報を FB ページにて掲載したことで、日本へ留学したい人々へ宣伝できた。
- ゲストとして帰国留学生の E.タミル（NGO 法人モンゴルアニメーション協会の CEO、Econte 社の総合プロデューサー）を招き、「日本におけるアニメーション産業の発展」についてのトークイベントを実施した。来場者は具体的な情報を直接聞くことができ、非常に好評だった。
- ご参加いただいた各大学の情報をフェア特設サイトおよび FB ページに掲載したことで、日本への留学を希望する方々への効果的な宣伝ができた。また、真剣に進路を考えている方々にとって、必要な下準備を整える手助けとなった。今回のフェアには、ウランバートル市内の大学 7 校および小中高一貫校 54 校、計 61 校の学生が各大学のブースを訪れた。
- 当日、開会式から大学の発表までのプログラムをモンゴル・日本センターの Facebook でライブ発信した。視聴数は 8015 回となった。

2) 今後の課題

- 会場運営をより良くするために、今後は会場全体の様子や来場者の入り具合がわかるよう、カメラを活用して情報共有する方法を検討する。
- 会場の雑音や周囲の声への対策として、個別相談用にヘッドホンを用意したが、十分な効果が得られなかった。今後はさらに効果的な方法を工夫していきたい。
- 終了後の大学からのアンケート、来場者アンケートの意見を次回フェアに可能な範囲で活かしていきたい。

以上